

基礎看護学

【科目の構成とねらい】

看護は人間を理解することで必要な支援が明らかになる。そのためには、人間・健康・生活・看護・医療の基礎を学び、発展させることで、専門職としての資質を身につけることができる。基礎看護学は、他の専門分野の基礎となる基礎的理論や基礎的看護技術を学ぶ位置付けとする。基礎看護学で学ばせる内容は他の専門分野の基盤となる内容を強調して教授し、知識・技術を習得して、看護を提供するための判断力を養う内容とする。

基礎看護学の科目は、「看護学概論」「看護理論」「ヘルスアセスメント論」「生活援助論Ⅰ～Ⅲ」「人間関係成立の技術」「看護倫理」「診療の補助技術」「クオリティ看護論Ⅰ～Ⅲ」の計12単位とした。

また、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を養うため、演習を強化した組み立てとし、シミュレーションやICTを活用した学習方法を取り入れる。

「看護学概論」

看護全般の概念を捉え、看護の位置付けと役割の重要性を認識できる内容とする。

「看護の概念」「看護の対象」「健康の概念」「看護の機能と役割」等で構成し、看護一般の概念や看護の本質について学ぶ内容とする。

「看護理論」

近代看護の創始者である、ナイチンゲールの看護の考え方をはじめ、代表的な諸理論を学び人間の理解を深めるとともに看護を考える力を養う内容とする。

「ヘルスアセスメント論」

患者の身体状況を把握できるフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を育成する。

「生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本的な看護技術を学び、確実に習得することで実践力の向上を目指す。内容は、形態機能学を踏まえて精選し、「活動休息・生活環境」「食事・排泄」「清潔・衣生活・安楽」を組み立てる。看護の対象を生活者として捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な看護技術の基本を学ぶ。

「人間関係成立の技術」

対象となる患者・家族をはじめ地域・医療チーム内のメンバーとの関係構築に向けた実践的なスキルを目指す。コミュニケーション能力の更なる強化を図るため、1単位とし、更に演習時間を充実する。

「看護倫理」

看護倫理と倫理的概念について理解し、医療従事者としての業務と責任について学ぶ。演習により看護実践における倫理的意思決定についての思考判断能力を養う。

「診療の補助技術」

薬物療法を安全かつ正確に実施できる内容とし、「与薬」「検査」を組み入れる。また、技術を提供するにあたり倫理的態度も養う。

「クオリティ看護論Ⅰ」

看護を科学的に展開するための思考のプロセスを学ぶ内容とする。

「クオリティ看護論Ⅱ」

臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ内容とする。事例に対してアセスメントを基に、健康問題の解決を図るため、複数の技術を選択する判断をしながら、複数の援助技術を組み合わせて看護が提供できる内容とする。そして、各看護学への学習が効果的につながるようにシミュレーションを活用して学ぶ。

「クオリティ看護論Ⅲ」

先人の看護理論に学び、看護に対する考え方を深められるよう、看護研究の基礎について学び、研究的態度を醸成する。

【目的】

看護の対象である人間の生を受けてから生を終えるまでのライフサイクルと、健康の意義及び保健・医療・福祉における看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1. 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置付けと役割を理解する。
2. 看護を実践する上での基礎となる知識と技術を習得する。
3. 対象の健康障害を理解し、生活の状態に応じた看護の基本を理解する。
4. 看護実践を科学的に展開する能力を養い、研究的態度を身につける。
5. 対象の安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。

【構成および計画】

< 講義 >

授業科目		単位数	履修時期		
			1年	2年	3年
看護学概論		1	○		
看護理論		1		○	
ヘルスアセスメント論		1	○		
生活援助論Ⅰ	活動休息・生活環境	1	○		
生活援助論Ⅱ	食事・排泄	1	○		
生活援助論Ⅲ	清潔・衣生活・安楽	1	○		
人間関係成立の技術		1	○		
看護倫理		1	○		
診療の補助技術	与薬・検査	1		○	
クオリティ看護論Ⅰ	看護過程	1	○		
クオリティ看護論Ⅱ	臨床判断	1	○		
クオリティ看護論Ⅲ	看護研究	1			○

授業計画

科目名	看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護の概念、看護の対象、看護の機能及び役割を学び、看護の本質を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護の概念	看護の定義 ICN、日本看護協会 保健師助産師看護師法 看護の概念 看護技術の概念	講義	専任教員*		
第 2 回		看護の変遷 古代・中世・近代	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		ナイチンゲールの看護論 ①	演習	専任教員*		
第 4 回		ナイチンゲールの看護論 ②	演習	専任教員*		
第 5 回		ナイチンゲールの看護論 ③ ヘンダーソンの看護論	講義	専任教員*		
第 6 回	看護の対象	看護の対象としての人間 ① 生活の概念図	演習	専任教員*		
第 7 回		看護の対象としての人間 ② 統合体としての人間 成長発達する人間	演習 講義	専任教員*		
第 8 回		生活者としての人間 生活・暮らすとは ライフサイクルと健康・生活	講義 演習	専任教員*		
第 9 回	健康の概念	健康の捉え方 健康と環境、健康と生活 (QOL) 健康とライフサイクル	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		基本的権利としての健康 健康の実現・ヘルスプロモーション	講義	専任教員*		
第 11 回		予防の視点からみた健康 家族の生活と健康	講義	専任教員*		
第 12 回	看護の機能と 役割	看護ケア・ケアリング 職業としての看護	講義	専任教員*		
第 13 回		多職種連携 (情報共有)、継続看護	講義	専任教員*		
第 14 回	看護活動の場と 役割	看護活動の場と看護の役割 専門職としての看護 看護の専門性 保健統計や歴史を踏まえた看護の展望	講義	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記・レポート				

授業計画

科目名	看護理論		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。 2. 「その人らしく生きる」を支援するための理論を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護理論の意義	看護理論の歴史の変遷 看護理論の種類	講義	専任教員*		
第 2 回	実践に必要な概念の理解	実践に必要な概念 中範囲理論の概要 認知行動理論、自己概念・自尊感情 ストレス・コーピング、役割理論・家族理論 コンフォート理論、価値・信念、発達課題論	講義	専任教員*		
第 3 回	看護理論と実践	主な看護理論の概要と実践をつなぐ ① ヘンダーソン、ワトソン ベナー、オレム、 トラベルビー	演習	専任教員*		
第 4 回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ ②	演習	専任教員*		
第 5 回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ ③	演習	専任教員*		
第 6 回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ ④	演習	専任教員*		
第 7 回	実践に必要な概念の理解	主な中範囲理論と実践をつなぐ	講義	専任教員*		
第 8 回	評価					
評価方法		筆記・レポート				

授業計画

科目名	ヘルスアセスメント論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護の対象である人の健康状態を評価する方法を理解し、基本技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護におけるヘル スアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と目的 ヘルスアセスメントにおける観察と視点 生命活動とヘルスアセスメント 必要な情報収集	講義	専任教員*		
第 2 回	バイタルサイン	フィジカルアセスメントに必要な技術 フィジカルイグザミネーションの基本技術	講義	専任教員*		
第 3 回		バイタルサインの観察とアセスメント ① 体温	講義	専任教員*		
第 4 回		バイタルサインの観察とアセスメント ② 脈拍、呼吸	講義	専任教員*		
第 5 回		バイタルサインの観察とアセスメント ③ 血圧	講義	専任教員*		
第 6 回		バイタルサインの観察とアセスメント ④ 体温表・フローシートの記載と報告	講義	専任教員*		
第 7 回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際 ①	校内 実習	専任教員*		
第 8 回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際 ②	校内 実習	専任教員*		
第 9 回		フィジカルイグ ザミネーション を活用した身体 状態の把握	系統別フィジカルアセスメント ① 呼吸器・循環器	講義	専任教員*	
第 10 回	系統別フィジカルアセスメント ② 腹部、筋・骨格系		講義	専任教員*		
第 11 回	系統別フィジカルアセスメント ③ 神経系・感覚器		講義	専任教員*		
第 12 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ① 呼吸器系・循環器系		校内 実習	専任教員*		
第 13 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ② 呼吸器系・循環器系		校内 実習	専任教員*		
第 14 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ③ 腹部・神経系		校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記・実技				

授業計画

科目名	生活援助論 I (活動休息・生活環境)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 日常生活における活動・休息の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 生活環境を整える意義を理解し、援助技術を習得する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	看護技術の特徴	看護技術の特徴 ① 看護技術の概念、看護技術の応用 看護技術の活用	講義	専任教員*			
第 2 回		看護技術の特徴 ② 校内実習と技術練習	演習	専任教員*			
第 3 回	安全・安楽な生 活環境の調整	環境の概念 療養環境調整における看護師の役割	講義	専任教員*			
第 4 回		患者を取り巻く療養環境 療養環境のアセスメント	講義	専任教員*			
第 5 回		ベッドメイキング	校内 実習	専任教員*			
第 6 回		療養環境を整える技術 臥床患者のシーツ交換	講義	専任教員*			
第 7 回		臥床患者のリネン交換	校内 実習	専任教員*			
第 8 回		毎日の療養生活の環境整備	校内 実習	専任教員*			
第 9 回		活動・休息の援助	日常生活動作の基本 活動の援助	講義	専任教員*		
第 10 回			身体の動かし方・触れ方 基本肢位・良肢位 ボディメカニクス	演習	専任教員*		
第 11 回	体位変換・ポジショニング 体位変換と基本の型		校内 実習	専任教員*			
第 12 回	活動の援助方法 休息・睡眠の援助		講義	専任教員*			
第 13 回	車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 ①		校内 実習	専任教員*			
第 14 回	車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 ②		校内 実習	専任教員*			
第 15 回	評価						
評価方法		筆記					

授業計画

科目名	生活援助論Ⅱ（食事・排泄）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	日常生活における食事・排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	食事・栄養の 援助	食事の意義 健康段階に応じた食事 食生活における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		栄養状態のアセスメント 食欲・摂食能力のアセスメント	講義	専任教員*		
第 3 回		食事の援助方法 経管栄養法	講義	専任教員*		
第 4 回		食事介助 ① 座位・ファウラー位での食時介助、口腔ケア	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		食事介助 ② 経鼻胃チューブの挿入・確認	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		食事援助を受ける患者の心理 食べることを継続するための援助 栄養サポートチーム (NST) の役割	講義	専任教員*		
第 7 回	排泄の援助	排泄の意義 排泄のアセスメント	講義	専任教員*		
第 8 回		自然な排泄の援助方法 排泄行動の選択と援助の決定 感染予防 (排泄物の取り扱い)	講義	専任教員*		
第 9 回		自然な排泄が困難な人への援助 ① 床上排泄、浣腸、摘便	講義	専任教員*		
第 10 回		便器・尿器を用いた排泄援助 尿意・便意を訴えた際の排泄援助	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		排便困難時の援助 グリセリン浣腸、摘便	校内 実習	専任教員*		
第 12 回		自然な排泄が困難な人への援助 ② 導尿	講義	専任教員*		
第 13 回		導尿 ① 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		導尿 ② 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	生活援助論Ⅲ（清潔・衣生活・安楽）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 日常生活における清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 看護における安楽の意義と方法を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	清潔・衣生活の 援助	清潔・衣生活の意義と目的 清潔状態のアセスメント	講義	専任教員*		
第 2 回		衣生活のアセスメント 衣生活の条件と適切な病衣の選択 衣生活の援助技術 寝衣交換	講義	専任教員*		
第 3 回		清潔の援助技術 ① 清潔援助の基本 整容 入浴、シャワー浴	講義	専任教員*		
第 4 回		清潔の援助技術 ② 足浴	講義	専任教員*		
第 5 回		衣生活の援助の実際 寝衣交換	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		清潔援助の実際 足浴	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		清潔の援助技術 ③ 清拭	講義	専任教員*		
第 8 回		清潔の援助技術 ④ 洗髪	演習	専任教員*		
第 9 回		清潔援助の実際 ① 全身清拭	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		清潔援助の実際 ② 全身清拭	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		清潔援助の実際 ③ 洗髪	校内 実習	専任教員*		
第 12 回		清潔援助の実際 ④ 洗髪	校内 実習	専任教員*		
第 13 回	安楽を提供する 技術	安楽の意義 安楽を阻害する原因のアセスメント 安楽を提供する援助方法	講義	専任教員*		
第 14 回		その人の日常生活に合わせた安楽の援助	演習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	人間関係成立の技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護における人間関係成立に向けたコミュニケーションの基礎的な知識と技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	コミュニケーションの意義と目的	看護におけるコミュニケーションの意義と目的	講義	専任教員*		
第 2 回	看護における関係構築のためのコミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの基本技術 接近的行動と非接近的行動	講義	専任教員*		
第 3 回		接近的コミュニケーションの実際	演習	専任教員*		
第 4 回		効果的なコミュニケーションの基本技術	講義	専任教員*		
第 5 回	看護における効果的なコミュニケーション	効果的なコミュニケーションの実際 ① 傾聴・受容・共感	演習	専任教員*		
第 6 回		効果的なコミュニケーションの実際 ② 傾聴・受容・共感	演習	専任教員*		
第 7 回		情報収集の技術	講義	専任教員*		
第 8 回		情報収集の技術と説明の技術の実際	演習	専任教員*		
第 9 回	医療におけるコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの基本技術 インフォームドコンセントと看護師の役割 グループでのコミュニケーション	講義	専任教員*		
第 10 回		実習承諾を得るためのコミュニケーション	演習	専任教員*		
第 11 回		医療におけるコミュニケーションの実際 報告・交渉・調整	演習	専任教員*		
第 12 回		カンファレンスの運営	演習	専任教員*		
第 13 回	コミュニケーションに障害のある人への対応	コミュニケーションの障害とは	講義	専任教員*		
第 14 回		コミュニケーションに障害のある人への対応 (失語症、構音障害、難聴など)	演習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	看護倫理		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護倫理について理解し、看護者としての責任を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	倫理と生命倫理	倫理とは 道徳・法律 生命倫理 医療倫理 ケアの倫理 看護における倫理 専門職と倫理	講義	専任教員*		
第 2 回	看護倫理と倫理的 概念	患者の権利 自己決定、告知 患者の権利擁護 個人情報保護	講義	専任教員*		
第 3 回	医療従事者とし ての業務と責任	個人情報に関する法的責任 看護とプライバシー 看護師の守秘義務 個人情報保護法とガイドライン	講義	外部講師*		
第 4 回		医療機関における医療安全対策 医療・看護の過誤事例	講義 演習	外部講師*		
第 5 回	倫理的問題のア プローチ	医療における倫理問題 倫理的葛藤 患者自身の治療選択を支える看護 医療における倫理問題 倫理的問題へのアプローチ 倫理的問題を解決するプロセス	講義	専任教員*		
第 6 回		意思決定を支援する技術 ケアリング ナラティブアプローチ 受容、傾聴、共感 エンパワーメント	講義	専任教員*		
第 7 回	看護実践におけ る倫理的意思決 定の実際	グループワークとディスカッションによる 事例検討	演習	専任教員*		
第 8 回	評価					
評価方法		筆記・レポート				

授業計画

科目名	診療の補助技術（与薬・検査）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 薬物療法の意義と安全、確実に予約する必要性を理解し、基礎的な知識・技術を習得する。 2. 検査における看護師の役割を理解する。 3. 輸血における看護師の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	薬物療法と看護	薬物療法の基礎知識 薬物についての基本的知識 薬物療法時の看護者の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		与薬と援助方法 経口与薬法、直腸内与薬法、塗布・塗擦法 点眼・点鼻法	講義	専任教員*		
第 3 回		経口与薬・直腸内与薬の実施	校内 実習	専任教員*		
第 4 回		注射の基礎知識 注射の実施方法 皮内注射、皮下注射	講義	専任教員*		
第 5 回		注射の実施方法 筋肉内注射	講義	専任教員*		
第 6 回		注射の準備と実施 ① 注射の準備	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		注射の準備と実施 ② 筋肉注射・皮下注射	校内 実習	専任教員*		
第 8 回		注射の実施方法 点滴病脈内注射	講義	専任教員*		
第 9 回		点滴静脈内注射の準備・実施 ① 点滴静脈内注射の準備	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		点滴静脈内注射の準備・実施 ② 点滴静脈内注射の実施	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		筋肉内注射の技術の実際 技術チェック	校内 実習	専任教員*		
第 12 回	輸血療法と看護	輸血療法の基礎知識 看護師の役割	講義	専任教員*		
第 13 回	診察・検査に伴 う看護	診察・検査と看護 看護師の役割 検査の種類とその看護	講義	専任教員*		
第 14 回		診察・検査と看護 検査の種類とその看護	講義	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅰ（看護過程）		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護過程の基礎知識を理解する。 2. その人らしい生活を支える看護を科学的思考に基づいて展開する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第1回	看護過程	看護過程の意義と必要性	講義	専任教員*		
第2回		看護過程に必要な知識 看護過程の基盤となる考え方	講義	専任教員*		
第3回	アセスメント	アセスメントの考え方 ① 情報収集、情報の整理	講義	専任教員*		
第4回		アセスメントの考え方 ② 情報の分析・解釈	講義	専任教員*		
第5回		アセスメントの考え方 ③ 全体像・関連図	講義	専任教員*		
第6回	看護問題の明確化	看護問題の明確化 原因・誘因、症状・徴候	講義	専任教員*		
第7回	計画立案	看護計画の立案 観察計画・援助計画・教育計画	講義	専任教員*		
第8回	実施	看護の実践の意義 優先順位と判断 記録・報告、SOAP	講義	専任教員*		
第9回		看護計画の評価	講義	専任教員*		
第10回	事例展開	アセスメント ① 情報整理、分析・解釈	演習	専任教員*		
第11回		アセスメント ② 関連図	演習	専任教員*		
第12回		問題の明確化	演習	専任教員*		
第13回		計画立案 看護目標、成果、介入、援助計画	演習	専任教員*		
第14回		実施・評価	演習	専任教員*		
第15回	評価					
評価方法		筆記・レポート				

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅱ（臨床判断）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の実践における的確な判断と適切な看護技術の根拠の必要性を理解する。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断の基礎的能力を身につける。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護の実践	経過別・症状別看護 急性期・回復期・慢性期・終末期の看護	講義	専任教員*		
第 2 回	臨床判断	臨床判断モデル 臨床推論と臨床判断、タナーの臨床判断モデル	講義	専任教員*		
第 3 回	臨床判断に必要な力	状態変化に対する気づきと解釈（発熱） 形態機能学等の知識を活用した看護技術	講義	専任教員*		
第 4 回	臨床判断に基づく看護技術	症状・状態に応じた対応と評価（呼吸困難）	講義	専任教員*		
第 5 回		状態変化に対する解釈と対応	講義 演習	専任教員*		
第 6 回		症状・状態に合わせた看護技術 （酸素吸入、ネブライザー、他）	校内 実習	専任教員*		
第 7 回	事例展開	臨床判断の基礎（浮腫） 事例を用いた展開 ① （解釈と対応）	講義 演習	専任教員*		
第 8 回		事例を用いた展開 ② （対象の症状・状態に応じた看護の実践）	校内 実習	専任教員*		
第 9 回		事例を用いた展開 ③ （看護実践の振り返り）	校内 実習	専任教員*		
第 10 回	救急の状況と看護	救命救急処置の基礎知識 救急法と看護 包帯法	講義	専任教員*		
第 11 回	救急状況にある患者の対応	救急法の実際 ① （上級救命講習） 心肺蘇生法	校内 実習	専任教員*		
第 12 回		救急法の実際 ② （上級救命講習） AED の使用方法	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		救急法の実際 ③ （上級救命講習） 止血法	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		救急法の実際 ④ （上級救命講習） 外傷時の応急処置	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅲ（看護研究）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次	
科目 目標	看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護を振り返る。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	看護研究の基礎	研究の意義 研究倫理 看護研究の方法、研究プロセス	講義	専任教員*			
第 2 回		研究における文献検索 文献検索の目的・方法 研究論文の読み方 研究論文のクリティーク	講義	専任教員*			
第 3 回	ケーススタディ の基礎	論文のまとめ方 論文の読み方・論文の書き方 論文作成上の留意点	講義	専任教員*			
第 4 回		研究発表 抄録の書き方 発表の方法	講義	専任教員*			
第 5 回	ケーススタディ の実際	論文（ケーススタディ）の作成 ① 文献検索	演習	専任教員*			
第 6 回		論文（ケーススタディ）の作成 ② テーマの焦点化	演習	専任教員*			
第 7 回		論文（ケーススタディ）の作成 ③	演習	専任教員*			
第 8 回		論文（ケーススタディ）の作成 ④	演習	専任教員*			
第 9 回		論文（ケーススタディ）の作成 ⑤	演習	専任教員*			
第 10 回		論文（ケーススタディ）の作成 ⑥	演習	専任教員*			
第 11 回		ケーススタディの発表 ①	演習	専任教員*			
第 12 回		ケーススタディの発表 ②	演習	専任教員*			
第 13 回		研究発表の実際	学術集会への参加 ①	学会 参加	専任教員*		
第 14 回			学術集会への参加 ②	学会 参加	専任教員*		
第 15 回	評価						
評価方法		筆記・レポート					